

湖南省藍山県過山系ヤオ族の送船儀礼

The YAO's Songchuan Rituals in Lanshan county, Hunan Province

三村 宜敬
MIMURA Nobutaka

譚 静
TAN JING

はじめに

送船儀礼は中国湖南省藍山県の過山系ヤオ族の伝承する年中行事である。今回神奈川県国際常民文化研究機構 研究グループ3-1. アジア祭祀芸能の比較研究の海外調査に同行させていただき、送船儀礼を調査する機会に恵まれた。日本から、廣田律子（神奈川大学）、吉野晃（東京学芸大学）、報告者2名と中国から張勁松（元湖南省文聯主席）が参加した。

送船儀礼は、2012年3月29日（旧暦3月8日）に藍山県荊竹村の六郎廟で実施された（図1）。この地における送船儀礼は、

かつては1年に4回ずつ行われていたそうだが、現在は春のこの時期にしか行われなくなったという。この儀礼の行われる意義は村落における除災招福を目的とし、村の家々を廻り瘟神を集め、それを船に乗せて流すために行われていると考えられる。しかし、藍山県の過山系ヤオ族の行う送船儀礼はそればかりか、土地に在する六郎廟や土地廟において別の儀礼が執り行われている。そのため本稿では報告者二人が同時間において行われた儀礼を個々に報告する事によって、送船儀礼の全容について述べる。なお、家々での儀礼の報告は三村、廟にお

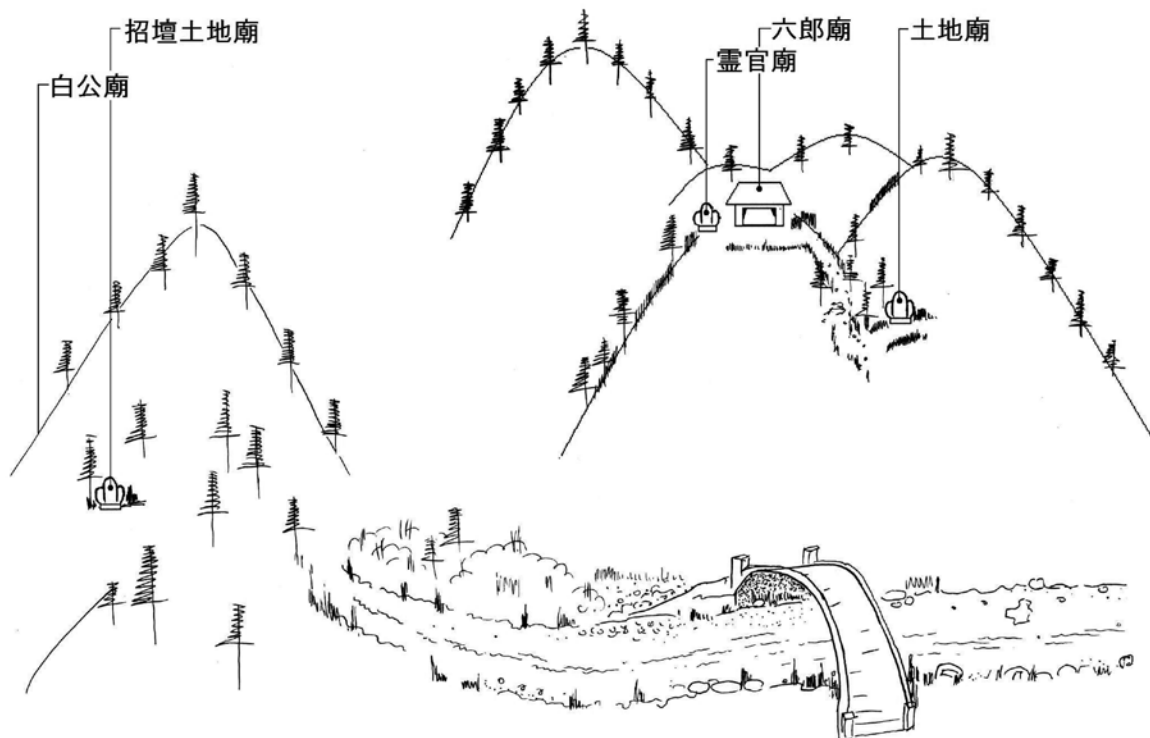


図1 送船儀礼における儀礼の場の図

ける儀礼の報告は譚が行っている。

1. 送船儀礼の進行過程

荊竹村の六郎廟に到着したのは、3月29日の午前8時頃であった。六郎廟は南に面して建てられた瓦葺土塀の小屋であり、中には六郎神の依り代と思われる石が南を向くように祀られ、その西側に靈官廟が自然石を立ち並べ、東を向いて祀られている(写真1・2・3)。廟に到着した頃には、六郎廟の東側で村人が2つの簡易的な竈を使い、大鍋で飯釜と豚肉と豆腐の厚揚げを煮ている最中であつた。これらの料理は、この日送船儀礼に参加する人々に廟の前で振舞われるのである。

この場では儀礼の他に送船儀礼に用いられる供物の用意が行われ、香龍と龍船が製作される。

1-1. 儀礼の参加者

今回の送船儀礼の主催者は荊竹村の住人であり、村長の趙光華氏は儀礼全体の責任者を務める。儀礼は荊竹村の6組(寒鷄沖組・荊竹坪組・五仔龍組・上桐古坪組・下桐古坪・鷄仔沖組)の内2つの組(荊竹坪組・寒鷄沖組)が主体となり、木の板にそれぞれの組に属する家々の代表者の男性の法名が記される(写真4・5)。この名簿板からは、荊竹坪組から19世帯、寒鷄沖組から12世帯、計31世帯が参加した事が分かる。

先にも述べたが、送船儀礼は廟で行われる儀礼と村の家々を廻って行われる儀礼に分けられる。そのため、儀礼を行う宗教職能者は2名おり、趙法明と盤法旗が行った。参加者に振舞われる料理や供物の調理や香龍と龍船の製作は荊竹村の荊竹坪組の人が担当しており、その製作は手馴れている。



写真1 六郎廟(撮影者:三村)



写真3 靈官廟(撮影者:三村)



写真2 廟内の六郎神(撮影者:三村)



写真4 名簿(左右)



写真5

(撮影者:譚)

1-2. 香龍の製作過程

送船儀礼が始まる前に儀礼に用いられる香龍と龍船が製作される。まず香龍から製作され、頭から尻尾まで5つの部分に分けられてほぼ同時進行で製作される。まず頭部の製作から述べると、二人組みで向き合い、4本の藁束に捻りを加えながら交互に編んでいく。編んでいる最中に稲藁の長さが足りなくなると、藁を加えて更に作業を進め、30cm大の小判型の藁草履の様な物ができあがる。これと同様の作業をもう一度行い2つ作る。その後この小判型の藁細工を上下に重ね上顎と下顎とし、そのモトの部分にシダなどその場に生えている草を挟み、龍が開口している様な細工を施す。同時に竹の柄が付けられる。

この柄は先端に竹の楔が取り付けられており、これが顎部に詰められた草の中に挿され、竹ヒゴで固定される事で香龍の強化が図られる。顎部の仕上げは、下顎の付け根に棕櫚の葉を細く裂いたものを結び髭とし、木を削って楔状にしたものに赤布を巻きつけたものを舌に見立て、二股の枝に舌と同様に布を巻きつけ頭部にあたる位置に挿し角とし、余った草や藁を切り落とす事で顎部が完成する。

香龍の胴体部分の製作は、比較的簡単で藁の中に草を詰め、円柱状にしたものに柄を付け竹ヒゴで固定する。ただ、頭部から尾まで次第に細くなるように作られてい



写真6 香龍(撮影者:廣田律子)

る。尾部の製作は途中まで胴体部と同様の工程で行う。ただし尾となる部分は藁の穂がついていた部分を尾の先端とし、3つ編みと同じ方法で編み上げ藁を用いて固定する。この様な作業によって香龍が完成する(写真6)。

1-3. 龍船の製作過程

龍船を作るにあたり、上記した香龍の製作と重なる作業が見られた。送船儀礼に用いられる龍船は、箆に龍頭と龍尾が付けられた形をしており、さながら甲羅を持っている龍である。製作は龍船の底部から行われ、経糸にあたる4本の竹ヒゴを編むのだが、編み始めから中程に従って次第に広げ、次第に細く締めていく。

ここに、先ほどの香龍の頭部と同じ方法で作成された小さな龍頭が備え付けられる。その後頭部と尾部の付け根の部分に青竹を挿し、船頭と船尾を立てた状態にする。この竹は龍船を担ぐ事を目的に取り付けられており、もう片方の先端には家々から集められるカマドの灰を入れるためのバケツが取り付けられた。

ここで同時に製作されていた竹ヒゴを編んだものを船の側部として取り付けると船の形となる。龍船の強度を上げるために竹ヒゴで底部と側部を固定し、10本近くの竹ヒゴを船の上部がドーム状になるように巡らせていく。その上に白い紙に鱗模様を描いたものを船体に被せ固定する。この内部には、板切れで作られたと見られる簡素な箱が入れられた。これには家々から受け取る包み(トウモロコシ殻・コウリヤン殻・[米+産]子殻・米殻・木炭)を入れる(写真7)⁽¹⁾。この箱の周囲には、趙法明が儀礼を行っている間に参加者によって紙銭が敷き詰められていた。

龍船の仕上げとして、香龍と同じく棕櫚

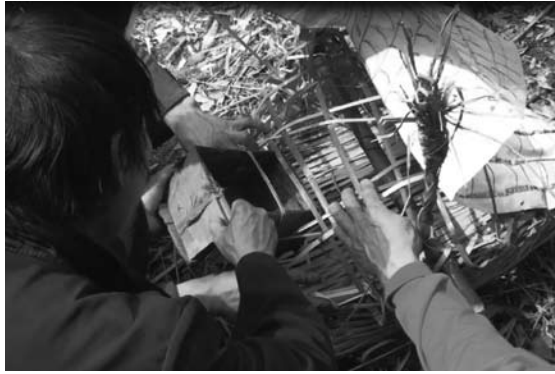


写真7 龍船の中の箱(撮影者:譚)

の葉を細く切ったものをヒゲとして、頭部と尾部の固定と線香と蠟燭を立てるための竹筒が取り付けられていた。その後龍船の頭と尾には白紙に船乗りと思われる人物像を描いたものを巻きつけ、趙法明よって勅変(香龍と龍船へと変化させる儀礼)が施される。

2. 六郎廟での儀礼

送船儀礼が行われるにあたり、六郎廟では趙法明と盤法旗によって廟の内外で同時に儀礼が進行された。儀礼の内容を記すにあたり、廟の内外で行われた儀礼を時間軸に従って述べると状況を理解しづらくなるため、別々に記す事とする。なおこの二人が行った儀礼は連携して進められるものではなく、個々に行われていた。

2-1. 廟外での儀礼—執行者：趙法明

六郎廟の南前に供物台が用意される。その上には酒杯が5つ、水杯が1つ、豚の脂身が入った碗、ビニール袋に入った米、板の切れ目に線香と蠟燭が立てられる。法師の趙法明はテキスト『送瘟書乙本』、劍、ト具(ヤオ族のト具は勾玉に似た形をしており、竹を削って作られている。これが表裏の二つに分かれる形によって占いを行う)、荊竹村2組の参加者の名が記された木板を携えて廟に背を向ける形で立つ。

そしてト具を3回鳴らし、軽い礼拝を

行った後に、唱えごとを始める。この際テキストを用いない。その後再びト具を鳴らすと、趙法明は携えていた『送瘟書乙本』の「送水用」部分を読み上げる。内容は以下の如くである。

送水用

春季春瘟刘文连 夏季夏瘟張元白
 秋季秋瘟鍾世貴 冬季冬瘟使文年各
 人奏到天底行遊殿上四角門樓街
 立春々分神立夏々至神立秋々至神立冬
 冬至神春季春瘟夏季夏瘟秋季秋
 瘟冬季冬瘟十二瘟王十留瘟器各人奏到
 瘟王殿上
 龍公龍母龍王太子五海龍王各人奏到五
 海殿上出世廟官
 大位行瘟五方五位行瘟各人奏到急行礼
 内禁(土偏+元)殿
 小位行瘟五方五位行瘟各人奏到湯郎州
 孝白县
 天東地東陰東陽東各人到天下東行礼内
 木馬殿上
 遊天遊地姑遊天七八娘猛潼仙姑魔黒仙
 娘十二梅花五
 行罡五姊妹九便十化之人各人奏到天下
 行遊四川餓梅山娘之殿上
 不怪天光婆不怪地光婆吃沙吃血娘々十
 仙姑十二仙
 娘各人奏到青云白雲脚下湯郎州要女县
 要樓殿上
 利血高血三娘紅面黒面將軍各人奏到廣
 西省蕉林脚下
 天火星地火星大位火星小位火敗担火
 娘々把
 火十郎犯火娘々各人奏到天堂大廟火星
 火坛殿上
 東斗灾央禍央各人奏到廣西都灾壺殿上
 青蛇白蛇貞(精)騰貞樹貞古木妖貞鷄
 婆鴨婆

貞各人奏到急江省白急殿上
 人瘟猪瘟鷄瘟筍瘟豆瘟一年四季 瘟使者行
 病仙人王各人奏到三十六金井里内禁
 玩殿上
 遊山五道高楼五傷西鵝大将金罌大帝左
 女
 过住神通各人奏到

2度読誦し終え、趙法明は唱えごとをしながら、供物台上の5つの酒杯に献酒を行い、ト具で占う。その後名簿板の名を読み上げつつ紙銭を地面へ置き、再び占いを行う。

この儀礼が行われている頃には、船の製作も終わり、香龍と龍船が、趙法明が儀礼を行っている供物台の前へ運ばれ、香龍に火のついた線香が挿される。その間に趙法明は右手に剣を、左手に水の入った碗を持ち、罡歩（マジカルなステップ）を行った後、勅水（水を変化させる）を行う（写真8）。そしてテキストの「又唱造舡」の部分を船の前で読誦し始める。これは船に対しての「勅変」の儀礼である。



写真8 香龍へ線香を挿す(撮影者:廣田律子)

又唱造舡
 告舡便问舡出世 此舡出世有根源
 借问单初何人告 何人告起送何瘟
 此舡出世有出世 此舡出世有根源
 此有魯班多騎口 魯班告起行送瘟

何岸山头有条竹 何人騎馬去斬口
 告起何舡将何用 将来今日送何瘟
 对岸山头有條竹 五郎騎馬去斬口
 告起龍舡将来用 将来今日送行瘟
 木甘了 木甘了 戊午二年木正干
 寅子二年倒條木 又請魯班来豆舡
 去到南安請木匠 請得木匠定魯班
 上头有個盤脚坐 下头有個面朝天
 你也且 我也且 木片分々落边两
 戒得大析相口脚 界得小析相舡边
 大析了了四千万 小析相了四千万
 告起舡头高万丈 告起舡尾到何边
 舡头又把鉄丁々过脚 又把鉄丁々舡边
 銅丁了了四万年 鉄丁々了四千万
 又把石炭批过脚 又把桐油々过边
 石炭批了四千万 桐油々了四千万斤
 舡正了 舡正了 十三条竹口舡蓬
 口起舡蓬遮小雨 便遮小雨便遮風
 稱舡了 稱舡了 手把竹搞稱过州
 一標稱到東海岸 二稱々到海龍門
 鳥口得見走上岸 螺絡得見関了門
 河泊水官得見啊々笑出世未曾見大舡
 家主今日将来用 将来今日送行瘟
 天瘟地瘟都送了 家々門下大何口
 吾奉太上老君急令勅

こうした勅変の儀礼は、船全体に対してだけではなく、船頭・船尾に巻かれた船乗りと思われる人物像に対しても、蠟燭の火をかざしつつ唱えごとを行う。

香龍と龍船に対してこのような儀礼が行われた後、趙法明は手に持っていた碗の水を口に含み香龍と龍船に吹きかけた後、唱えごとを行いながら剣で符を描く。再度、罡歩と手訣を行う。そして名簿を読み上げながら、紙銭2枚を小さく丸め、3枚目を丸める際にテキストの「送水用」の部分を読誦すると、それらの紙銭を船の中へ入れる。これにより、廟外での儀礼に一区切り

がついたと思われる。

2-2. 廟内での儀礼—執行者：盤法旗

廟内で行われた儀礼は、比較的簡素である。廟内の六郎神の前には酒杯が5つ、水杯が1つ置かれているのみで、線香と蠟燭が供えてある。盤法旗は廟の外で趙法明と同時進行で、唱えごと、卜具による占い、酒杯への献酒、紙銭を積み上がりのみで燃やさない（写真9）。この儀礼ではテキストや作成された名簿は用いていない。

3. 各戸における儀礼

六郎廟において儀礼を終えた後、香龍の頭部を趙法明が、その次を盤法旗が、その次から尻尾までを参加者が持つ。そして趙法明が龍を舞わせながら六郎廟を出入りする。この舞いは各人が先頭の趙法明の動きに合わせて、龍の各部を左右に振る事で、さながら1匹の龍が動いている様である。またこの動作の他にとぐろを巻いた状態も表現していた（写真10）。

六郎廟において、この香龍の舞いが終わった直後、趙法明と盤法旗が龍の頭部を参加者に手渡すと、廟西側にある靈官廟の脇の山道在先頭に楽隊、香龍、龍船の順番で登り、山の中腹にある道を目指す。これより村の家々をめぐる「災いをもたらすもの」を取める儀礼が行われるのである。

急勾配の山道を始め30分程で車が通る

事のできる道に至ると楽隊はシンバルやチャルメラ、ドラを響かせ、村の西の端へと移動を開始する。

西の端の家へ到着すると、玄関より入って正面に位置する祖先壇へ各人が行進をしながら礼を行う。ここで香龍の頭部が祖先壇の前へ来ると持ち手は、頭部に挿されている線香1本を香炉に挿し礼拝をするが、その後ろへ続いている持ち手は礼のみ行う。この屋内での楽隊と香龍の行進の際、龍船は庭先に置かれており、屋内に入る事はない。行進が終わると、家の主人が庁堂の正面の三廟大王を祀るとされる壁中央部下、祖先の祭壇の下と庭先の龍船の側で紙銭を燃やしていた⁽²⁾。盤法旗がこの家へ到着すると、右手に剣、左手に名簿と紙銭を持ちながら玄関先で唱えごとを始めた。しばらく唱えごとをした後卜具による占いを行い、紙銭を小さく丸める。そして丸め終わってしまうと自らの体の周りを時計回りに3回回し、2枚目の紙銭を丸め始める。この紙銭の1つは家人に渡され祖先の祭壇へ、もう1つは法旗の唱えごとと共に龍船へと入れられる。家人に渡された1つは家族全員の魂魄を祖先が守ってくれるように祖先の祭壇に置かれる。もう1つは火災が起らないように、また病気がはやらないようにと龍船に入れられる。法旗が玄関先で儀礼を行っている際、この家の家人は穀物の殻と木炭を入れた包みを龍船に入れ、さ



写真9 廟内での儀礼(撮影者:廣田律子)



写真10 香龍の舞(撮影者:廣田律子)

らに龍船と共に運ばれるバケツにかまどの灰と水を入れ、香龍を運ぶ人に線香を渡して龍の胴体に挿してもらう⁽³⁾。

その後法旗は、玄関の戸を閉めさせそこへ符(魁字)を描く(写真11)。これによって1軒の儀礼が終了し、楽隊の奏でる音楽を先頭に龍と船は次の家へと向かう。

以上の一連の動作を家々で繰り返すが、今回の調査において見る事が出来た4軒の家において若干の違いが見られた。その動作とは法旗が1個目の紙銭を小さく丸めた後、自身の体の周囲を時計回りに回す動作である。この動作が行われたのは、1軒目と3軒目のみである。その他の2軒では手元で動かすのみであった。この動作を見る事ができた母体数が少ないためどの程度の割合で、行っていたのかは不明である。

4. 霊官廟における「祭霊官爺爺」儀礼

これより盤法旗が村の家々を廻っていた同時進行で六郎廟において趙法明が行った儀礼について述べる。趙法明により、まず「祭霊官爺爺」儀礼が行われた。霊官廟は六郎廟の西側にあり「霊官爺爺」が祀られていると言う。

「祭霊官爺爺」儀礼では、趙法明は霊官廟の前で儀礼の準備を始めた(程序47番～84番)。

霊官廟は3個の楕円形の大きな石が縦に置かれて作られており、前に平らな石が置かれ祭壇として使われている。廟と名付け



写真11 符(魁字)を描く(撮影者:三村)

られているが祠は無く、野ざらしである。この後の儀礼で、土地廟、招壇土地廟、白公廟が出てくるが、これらも祠は無い。

祭壇の奥には3本の線香、1本の蠟燭が立てられ、手前に5つの酒杯が置かれた。さらに村長の趙光華が祭壇に油揚げと豚の脂身を入れた碗と赤いビニール袋に入れた白米を供えた。

11時40分、趙法明が霊官廟の前でト具を二度鳴らし礼拝してから、唱えごとを始めた。そして村人の法名が書かれた名簿板を持ち、読み上げながら唱えごとを行う。

さらにト具で占いを行った後に祭壇へ礼拝し、酒杯へ献酒を行った。さらに紙銭を数え、数枚ずつ祭壇前に積んで置き、ト具でさらに占いを行った後に調理人を呼び寄せ、霊官廟の前で犠牲の鶏を捧げた。この犠牲の血は廟の中心にある楕円形の石にかけられ、そこに3枚の紙銭が貼り付けられた。その後祭壇の前で紙銭を燃やし、占い、唱えごと、献酒が繰り返えされた。立ち上がり祭壇に向かって礼拝し、「祭霊官爺爺」儀礼が終了する。

5. 六郎廟における「供奉六郎」儀礼

霊官廟で儀礼が行われた後、一時休憩を挟み、六郎廟内において儀礼が行われた。

六郎廟に祀られている神は六郎神とされる。趙法明によると、六郎神は即ち『楊家将』の楊六郎であると言う。以前この廟には六郎神の神像が祀られていたが、現在は神像が破壊されてしまったために祀られていないとする。また参加者の元藍山県民族宗教局幹部によると、この六郎廟は彼の祖父が小さい頃既に存在したとする。六郎廟は少なくとも100年以上の歴史を持っていると推測できる。

廟内には石と板で作られた簡易な祭壇が設けられている。その上には香炉が1つ置

かれ、香炉には線香3本、蠟燭1本が立てられ、その前には酒杯が5つ置かれていた。

儀礼の準備として12時32分頃に、調理人が祭壇の左奥へ碗に煮鶏を載せたものを供えた。12時40分頃に趙法明は六郎廟内の祭壇前で「供奉六郎」儀礼を始めた（写真12）。まず法明は、手前に置かれた5つの酒杯へ献酒を行いつつ、唱えごとを始めた。その後に紙銭を祭壇前に積み火を付ける。その間、法明は何度も占いと唱えごとを繰り返していた。そして再び紙銭を積んで燃やし、占い、献酒、占いと行い、最後に祭壇でト具を叩きながら礼拝をし「供奉六郎」儀礼は終了した。

6. 土地廟における「祭土地公公」儀礼

六郎廟での儀礼が終了した後、趙法明は休憩を挟んで、土地廟へ向かった。その際、村長の趙光華が土地廟は「倒木によって埋められた」という話をしてくれた。場所が分かりづらいため一人の村人が案内役となり、その後ろに法明と共に続いた。

土地廟は、六郎廟の東側にある細い山道を降りた、すぐ側に位置する。余談だが、この道を下っていくと沢に着き、飲食の水はこの沢から調達されている。土地廟があるという場所には竹や草が生い茂っているため、一見して土地廟を確認できない様なあり様であった。案内役が鉋で生い茂る竹や草を切り、道を開くと、そこには確かに倒木が確認でき、更に草を切ると、三つの



写真12 「供奉六郎」儀礼（撮影者：譚）

楕円形の大きい石で作られた土地廟が倒木の下に確認できた。

趙法明によると、土地廟には「土地公」が祀られていると言う。ヤオ族宗教職能者が持つテキストにはこの神に関する歌⁽⁴⁾が記されている。

土地公	土地公	老来頭上白逢々
人老便是頭上白		木老便是脚下空
土地太	土地太	七寸衣衫陀地坭
五寸高床上不得		又請魯班来■梯

<後略>

この歌によると土地公は、髪の毛がボサボサで白髪で背が低いお爺さんであると認識されている事が分かる。

土地廟の周囲をきれいにした後、趙法明は廟の前で「祭土地公公」の儀礼を始めた。まず廟へ3本の線香と1本の蠟燭を立て、祭壇とする石に酒杯を置き、酒を注いだ。祭壇の前で紙銭を積んで燃やしながら、唱えごとをした。この儀礼は今回行われたものの儀礼よりも短く、3分程度で終了した。

7. 六郎廟における「祭四廟」儀礼

土地廟において儀礼を行った後、昼食を摂ると六郎廟の前において儀礼が行われた。趙法明によると、この儀礼は「祭四廟」儀礼とされ、「四廟」とは、三廟とされる福江、連州、行平、伏霊、厨司の神々に加え、龍城を加え四廟とする。

15時51分頃、供物の準備として村長の趙光華が六郎廟の下の沢で鶏の内臓などを取り除く洗浄を行った。その間に廟前の供物台には、1本の蠟燭と3本の線香が立てられ、油揚げと豚の脂身を入れた碗が供えられた。その手前には、5つの酒杯が置かれ、供物台の左側には赤いビニール袋に入れた白米が供えられた。16時07分頃に趙

法明は礼拝の後、卜具を叩きながら唱えごとを開始した。献酒、唱えごとを続け、村人の名簿板を読み上げながら唱えごとをする。そこへ村長が先ほどの鶏を茹でて碗に入れて供物台に供える。そして献酒、紙銭を地面に積み、さらに献酒、後に紙銭に火を付ける。そこで占いを行い、献酒、再度占いをした。そして立ち上がって卜具を叩きながら2度礼拝し、儀礼が終了した。

8. 招壇土地廟・白公廟で行われた儀礼

「祭四廟」儀礼の後、招壇土地廟で行われる儀礼のために移動を行った。招壇土地廟は少し離れた場所にあり、山を下り、西の方角へ向かいながら、川を渡り、対岸の山道の中程にある。

招壇土地廟も3つの大きな楕円形石が縦に立てられている(写真13)。到着の後、招壇土地廟の祭壇へ油揚げと豚の脂身を入れた碗を供えた。その奥には水を入れた杯とビニール袋に入れた白米、蠟燭を2本、線香を6本を立て、一番手前には、酒杯を5つ置いた。

17時13分頃、趙法明は卜具を鳴らし、唱えごとを始めた。献酒、唱えごとを続けた後に紙銭を地面に積み、犠牲の鶏を捧げ、その血を紙銭につける。そして招壇土地廟の楕円形石に紙銭を貼り付けた。

招壇土地廟の西側の山道には、「白公廟」(写真14)と呼ばれる廟がある。これは切



写真13 招壇土地廟(撮影者:三村)

り立った崖の下に出来た空間に楕円形の石が立てられたものである。村人は先ほど招壇土地廟にて捧げられた鶏を持ち、その血を白公廟の石にも撒き、紙銭を貼り付けた。

その間趙法明は招壇土地廟の前で唱えごとを続けている。そして紙銭に火を付け、献酒を行う。最後に卜具による占いをし、立ち上がって卜具を鳴らしながら礼拝をし、この場所での儀礼が終了した。

9. 儀礼の終結

趙法明が土地公廟で儀礼を行った後、荊竹の橋において儀礼は最終場面を迎える。この橋へ到着したのは18時近くであった。川原には流れの上に木を渡し、焚き上げる木等が積み上げられていた。その側で法明は5つの酒杯、水杯、豚の脂身が入った碗に線香を立て、ビニール袋に入った米を置き儀礼を開始した。法明が唱えごとをしながら、献酒を行っているとき積み上げられた木々に火がかけられた。その後東側の山間に楽隊のチャルメラやドラの音が響き始めた。山間に響く楽隊の音が時には遠く時には近くに聞こえ、次第に近づいてくる事がわかる。

楽隊、香籠、龍船が現れ橋を渡りきると、今朝六郎廟において行われた龍の舞が行われる。うねる様な動作、体を上下に動かす動作などを舞い終えると香籠は川辺の炎の中に投げ込まれた(写真15)。それに続いて、龍船と法明が積んでいた紙銭の上へ儀



写真14 白公廟(撮影者:吉野晃)

牲の鶏の血を滴らせた後、炎の中へ投じられた。家々から集められた灰も川へ流されたようである。法明はこの間に名簿を見ながら紙銭を積みつつ唱えごとを続けている。

ここで、法明の前にある蠟燭の他に2本の蠟燭が少し離れた所に用意される。そして鶏の血が撒かれた紙銭は、犠牲や蠟燭を用意した人物の手によって炎へ投じられた。

法明は唱えごととト具による占いを行った後、少量の米を摘んで2枚の紙銭で包み、小さく折り畳み、占いをした後、この包みに対して手訣を施した(写真16)。この包みは参加者の一人に手渡された。さらに同じ包みを作り同じ事を施すと別の人物へ渡したが、計3回行い3人の人物に渡していた。これら3つの包みを作る際にも自身の体の回りを時計回り、反時計回りに回していた。

その後、盤法旗が法明の所へ行き、二人



写真15 火に投じられる香籠(撮影者:廣田律子)

で儀礼を行う形となる。法明は唱えごとを行い、法旗は杯への献酒の後、積んである紙銭に火を点ける。法明は唱えごとを行うのみだが、法旗は唱えごとをしつつ紙銭を加えて燃やす。以上で送船儀礼は終了した。

まとめにかえて

今回送船儀礼において、実際に「船」を用いている事に興味を覚えた。湖南省藍山県の過山系ヤオ族が居住する地域は、川の水量は船を用いられる程多くない。そのため日常生活で船に関わる事はないと思われる。にもかかわらず今回の様な船を用いる事、そして山深い地に居住するヤオ族に船の形が伝承されている事に驚きを覚えた。さらにこの船は、ヤオ族が行う宗教者としての最高位を叙任する度戒儀礼の最終段階で行われる「送船」に用いられるものと同型のものである。神奈川大学ヤオ族文化研究所に所蔵されている度戒儀礼⁽⁵⁾の「送船」の映像データと比較を行うと細部は異なるものの同型であると思わせる。そしてこの度戒儀礼における「送船」も、今回の送船儀礼と同じく度戒儀礼を行った「場」を清浄にするための、即ち除災招福の意味を持つ儀礼であると考えられる。

その概要を『藍山県瑶族伝統文化田野調査』⁽⁶⁾より引用する。



写真16 手訣を行う(撮影者:廣田律子)

度戒の掛灯儀礼終了後、一人の法師を度戒儀礼が行われた場に招き「清場」の儀礼である「送船」を行う。度戒儀礼の参加者は半月にわたる度戒儀礼において天地の神、土地の神、神霊を驚かせ、祀られぬ霊達を呼び寄せたため、儀場周辺の村の安全のために、さらなる「清場」の儀礼が不可欠となる。その儀礼は、法師が竹ヒゴを用いて小船を一艘作り、紙銭を載せ、醮壇のあった場所に置き、線香・茶・酒などを供え、師の霊を招き、儀礼を行う理由を述べた後「送船」儀礼を補助してもらう。まず“破武連住貧、虎符伝朝斗”の方位に罡歩をし、船を勅する。しかる後に二人がかりで船を抱え、村の中の祀られぬ霊達を探す。法師は勅変の法を用いて道を切り開き、村中の家の門へ霊符を貼る。船は村の堺の川辺に運ばれ、桃符を貼り道を断つ。(中略)最後に船は川辺で燃やされる。これで船は水によって東海に流れ、祀られぬ霊達を戻らせることは無い。

この度戒儀礼の送船には香龍こそ出てこないものの類似する点が多く比較対象として非常に興味深い。以下にふたつの送船儀礼の類似点をまとめる。

- ①竹ヒゴにより船を作る。船は龍を模したものである。
- ②船を勅変させ紙銭を積み込み、対象となる村を移動する。
- ③船には祀られぬ霊達（孤魂野鬼）を乗せる。
- ④船は川辺に運ばれ燃やされる。

この様に2つの送船儀礼には類似点を見出す事ができる。そして儀礼の目的も、度戒儀礼における送船は、上記の様に「儀場の清浄化」を目的とし、旧暦3月8日の

送船儀礼は「除災招福」「防火」を目的とする。即ち、2つの送船儀礼の目的も「清浄化」というキーワードから見ると同じ目的で行われていると言える。

この2つの送船儀礼はどちらも祀られぬ霊達（孤魂野鬼）を乗せた船を燃やしてしまう。日本において行われる送船と見做される年中行事においては、災禍の原因たるモノを乗せた船や依り代を川に流しこすすれども燃やす事は無い。むしろ、盆の先祖送りの際に川へ先祖船に寄せられ流された後の供物を食べると健康になるといった伝承も見られる程である。しかしながら、過山系ヤオ族の行った送船儀礼における船を燃やす行為の裏には、船の姿さえ残す事も恐れ、忌み嫌っている様子が感じられた。今回調査に訪れる事ができた送船儀礼は年中行事として行われており、度戒儀礼での送船の様に数年に一度という特殊な状況の儀礼ではない。また旧暦に行われる送船儀礼は、家々の竈から灰を集めている点も非常に興味深い。中国の少数民族の中では竈の火に避邪の力があると信仰されているものがある⁽⁷⁾。藍山県の過山系ヤオ族にこうした事例が当てはまるのかは不明であるが、除災招福を願う儀礼に竈が出てくる点から過山系ヤオ族にも竈神への信仰があるのではないか。

そしてこうした過山系ヤオ族の生活に関係する年中行事として行われる儀礼の調査分析を行う事で、度戒儀礼の解明についてはヤオ族の研究に一石を投じられるのではないかと考える。(三村)

筆者は2011年12月に神奈川大学国際常民文化研究機構 第3回国際シンポジウムの際に、韓国・台湾・タイのヤオ族における送船儀礼の発表及びその映像を拝見したことがあるが、今回自分の目で送船儀礼を

確認するのは初めてであった。韓国の白い箱で作られた船・台湾の立派な船・タイのヤオ族の藁で作られた小さな船と比べ、湖南省藍山県過山系ヤオ族の龍船及び線香が立てられた香龍は非常に地域的な特色を持っていると考えられる。また船などの儀礼に用いられた用具に留まる事なく、他の地域との儀礼構造の比較に及ぶ必要があると考える。

ヤオ族が行う儀礼で、筆者が一番関心を持っているのは儀礼に用いられる神画についてである。しかし残念な事に、今回の送船儀礼の中では神画は使用されていなかった。タイのヤオ族における送船儀礼には、ワンセット 18 枚の神画を祀る儀礼のうち、「掛燈」・「超度」・「做身」の中で 18 枚神画の中にある「十王図」を用いられる事が報告されている（吉野 晃、2011、「タイ北部、ユーミエン（ヤオ）の船送り」）。このタイにおけるヤオ族も同じ過山系ヤオ族が行う送船儀礼だが、なぜ湖南省藍山県地域では神画が使用されていないのか非常に興味深い。こうした地域による儀礼の差異を分析することを今後の課題としたい。（譚）

註：

- (1) 神奈川大学 国際常民文化研究機構
Copyright © 12 国際常民文化研究機構 All Right Reserved 共同研究 研究グループ 3-1. アジア祭祀芸能の比較研究 海外調査（中国）【湖南省瑶族送船儀礼調査報告】廣田律子「藍山県荊竹村旧暦 3 月 8 日送船儀礼調査について」URL: <http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp/research/group6/result.php> 2012 年 7 月閲覧
- (2) 註 1 に同じ
- (3) 註 1 に同じ
- (4) 神奈川大学ヤオ族文化研究所に所蔵する湖南省藍山県過山系ヤオ族文献 A30、資料番号：IMG_3446 ~ IMG_3448。「請住宅土地」

土地公	土地公	老来頭上白逢々
人老便是頭上白		木老便是脚下空
土地太	土地太	七寸衣衫陀地坭
五寸高床上不得		又請魯班来■梯
黄昏洗脚上床睡		去得床邊鷄又啼
公又嫌妻身有蛇		凄又嫌公脚有坭
中心有條横■過		管你兩頭齋不齊
我在家中為土地		保得子孫個々正■明
你在牛■為土地		保得大才去耕田
你在猪樓為土地		保得養猪三百斤
你在鵝 為土地		保得鵝脰長ヒ叫上天
你在鷄■為土地		雞兕石双々得成双
你在鴨籠為土地		鴨公川破九條春
你在田中為土地		保得田禾收拾倉
你在塘中為土地		保得鯉魚十八斤
你在山中為土地		管得虎兕為大山
你在宅中為土地		日裡進金宿進銀
聞說今朝有相請		齋々正々降香壇

（入力不可能な文字は■とした）
- (5) 科学研究費補助金 基盤研究（B）研究課題「ヤオ族の儀礼と儀礼文献の総合的研究」によってヤオ族文化研究所が 2008 年に「度戒儀礼」の調査を行った。
- (6) 張勁松 2002 年『藍山県瑶族伝統文化田野調査』湖南岳麓書社 207 頁 54. 送船
- (7) 楊福泉『灶与灶神』中華民俗文叢 北京学苑出版 1996 年「漢族灶神与少数民族灶神之比較」94 頁

※図 1 は譚静の作成。

送船儀礼程序

ここに掲載する送船儀礼の程序は、ヤオ族文化研究所の「2008年ヤオ族度戒儀礼程序」の形式を用いて作成した。ただし、本表は作成過程で現在の調査内容によるものであり、今後変更される点がある事をお断りしておく。送船儀礼において、同時時間帯に別の場所において行われていた儀礼があるため、本表では時系列順に表記し、網掛けによって差別化を図った。

番号	日付	時間	大儀礼名	場所 (大項目)	場所 (小項目)	行動主	行動	読誦・念誦して いるテキスト	記録者
1	3/29			六郎廟			廟に到着。		三村
2	3/29	8:18		六郎廟		村人	線香に火をとます。		三村
3	3/29	8:19		六郎廟	廟内		廟の神位線香と蠟燭が供えられる。		三村
4	3/29	8:28		六郎廟	靈官廟		線香と蠟燭が供えられる。		三村
5	3/29	8:38	龍の製作	六郎廟		村人	龍の製作。竹のに切れ込みを入れる。		三村
6	3/29	8:40	龍の製作	六郎廟		村人	二人で正面に向き合い、稲藁を擦っていく。		三村
7	3/29	8:40	龍の製作	六郎廟		村人	竹の切れ込みに、竹の棒を差す。		三村
8	3/29	8:56	龍の製作	六郎廟		村人	稲藁で作られた小判型のものを上下に組み合わせて、龍の顎とする。その中に赤い布を巻いた木の棒を入れ、舌とする。		三村
9	3/29	8:56	龍の製作	六郎廟		村人	龍の胴体を作成。		三村
10	3/29	9:11	龍の製作	六郎廟		村人	龍の尻尾作成。		三村
11	3/29	9:54	龍の製作	六郎廟		村人	龍船の頭にあたる部分を作成。二人で正面に向き合い、稲藁を擦っていく。		三村
12	3/29	10:06	龍の製作	六郎廟		村人	龍船の頭にあたる部分を竹ヒゴで結ぶ。		三村
13	3/29	10:07	龍の製作	六郎廟		村人	龍船の底部作成。竹ヒゴを編んでいく。		三村
14	3/29	10:09	龍の製作	六郎廟		村人	龍を木の杭で細かく突き刺す。線香を立てる為の作業？		三村
15	3/29	10:10		六郎廟		趙法明	ターバンを巻く。法服を着ていない。		三村
16	3/29	10:15		六郎廟			廟の前の供物台の上に、豚の脂身の入った碗1、水杯1、献酒用の酒杯5、送船儀礼のテキスト、剣。板の隙間に線香が立てられる。		三村
17	3/29	10:19		六郎廟		趙法明	立った状態でト具を3回鳴らし、礼の後唱えごとを始める。		三村
18	3/29	10:19		六郎廟		趙法明	イスに座って唱えごと。供物台に蠟燭が立てられる。		三村
19	3/29	10:25		六郎廟		趙法明	ト具を鳴らし、テキストを読み、名簿を読みあげる。(シンバル、ドラが鳴り出す。)	「送水用」	三村
20	3/29	10:29		六郎廟		趙法明	再度、テキストを唱え、名簿を読み上げる。(音楽なし)	「送水用」から	三村
21	3/29	10:35		六郎廟	廟の中	盤法旗	趙法明と同時進行。六郎廟の中で唱えごと。		三村
22	3/29	10:37		六郎廟		村人	廟の中の机で大きな白紙へ、龍船の背中部分(鱗)を作画。		三村
23	3/29	10:46		六郎廟		趙法明	唱えごとをしながら献酒。名簿を読み上げる。		三村
24	3/29	10:46		六郎廟	廟の中	盤法旗	紙銭を置く。		三村
25	3/29	10:48		六郎廟		趙法明	占いを行った後、唱えごとをしながら献酒。		三村
26	3/29	10:49		六郎廟		趙法明	唱えごとをしながら紙銭を地面に置く。	「送水用」	三村
27	3/29	10:54		六郎廟		趙法明	名簿を読み上げながら、紙銭を地面に置く。		三村

番号	日付	時間	大儀礼名	場所 (大項目)	場所 (小項目)	行動主	行動	読誦・念誦して いるテキスト	記録者
28	3/29	10:56		六郎廟		趙法明	唱えごとをしながら地面に紙銭を置く。占いを行う。		三村
29	3/29	10:57		六郎廟		村人	龍と龍船が長机の前に運ばれてくる。龍に線香を挿し立てる。		三村
30	3/29	10:58		六郎廟		趙法明	罡歩をし、勅水を行う。	「又唱造舩」 の頁	三村
31	3/29	11:00		六郎廟		趙法明	龍船の前に移動。碗、剣、テキストを持っている。テキストを唱える。	「又唱造舩」	三村
32	3/29	11:03		六郎廟		村人	龍船の仕上げか		三村
33	3/29	11:04		六郎廟		趙法明	テキスト IMG_4017 を開き、龍船を勅変。占いを行う。	「又勅変舩用 字令」の箇所	三村
34	3/29	11:04		六郎廟		村人	龍船の船尾に人物の描かれた紙を巻きつける。		三村
35	3/29	11:06		六郎廟		趙法明	供物台に挿してあった蠟燭を持って、龍船の前で勅変。龍船と人物の描かれた紙に対して行っている模様。		三村
36	3/29	11:08		六郎廟		趙法明	碗の水を口に含み、龍に対して吹き掛け、唱えごとをしながら剣で描く。		三村
37	3/29	11:10		六郎廟		趙法明	供物台の前で、手に剣を持ち、唱えごと。罡歩、手訣を行う。		三村
38	3/29	11:11		六郎廟		趙法明	名簿を読み上げる。唱えごとをしながら、紙銭を丸める。		三村
39	3/29	11:14		六郎廟		趙法明	唱えごとをしながら、紙銭を丸める(2個目)。		三村
40	3/29	11:15		六郎廟		趙法明	テキストの IMG_4010「送船用」の頁を開け、3個目の紙銭を丸める。	「送水用」	三村
41	3/29	11:16		六郎廟		趙法明	唱えごとをしながら、円柱状の紙銭を龍船に入れる。		三村
42	3/29	11:17		六郎廟		趙法明	積んでいた紙銭を持ち、机を東側へ移動させる。		三村
43	3/29	11:22		六郎廟		趙法明、 盤法旗、 村人 (3人)	趙法明が龍の頭部、盤法旗が2番目を持ち、まず廟の中に入って礼拝、皆その後続く。廟前や廟の内で回転したり、荒々しく振り回したりしながら舞う。		三村
44	3/29	11:26		六郎廟		趙法明、 盤法旗、 村人 (3人)	龍の頭部を趙法明と村人が交代する。廟内で礼拝。霊官廟で礼拝。		三村
45	3/29	11:26		六郎廟		村人	霊官廟の横の山道を登っていく。		三村
46	3/29						登山中		
47	3/29	11:35	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	村長	村長は廟の祭壇に碗(油揚げと豚の脂身)と白米を供える。		譚
48	3/29	11:40	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	霊官廟の前で、趙法明がト具を2回叩きながら礼拝し、唱えごと開始。		譚
49	3/29	11:42					登山終了。1軒目の家(1番西に位置する)へ移動。(隊列の順は、シンバル、銅鑼、龍の頭、胴体3人、尾の人、龍船を持つ人、袋を持つ人。)		三村
50	3/29	11:45	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	木の板に書かれた名簿を取りに来、読みながら唱えごと。	名簿板	譚
51	3/29	11:50		1軒目の家			隊列の先頭(シンバルを持った人)が1軒目の家へ入り、祖先の祭壇へ礼拝。龍が後に続く。龍の頭を持った人が3回祖先の祭壇へ礼をした後、龍の頭に刺さっている線香を1本香炉へ立てる。		三村

番号	日付	時間	大儀礼名	場所 (大項目)	場所 (小項目)	行動主	行動	読誦・念誦して いるテキスト	記録者
52	3/29	11:51		1 軒目の家			家の前へ龍、龍船を置き休憩している。		三村
53	3/29	11:51		1 軒目の家		家の主人	家の中では、祖先の祭壇の前2箇所、入り口の向かって左で紙銭を燃やす。		三村
54	3/29	11:52		1 軒目の家			家の右側の部屋から線香をに火をつけた人が出てくる。		三村
55	3/29	11:52		1 軒目の家		盤法旗	盤法旗到着。ターバンには赤い布が巻かれている。		三村
56	3/29	11:52	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	占いを2回行い、立ち、卜具を叩きながら、礼拝3回行う。		譚
57	3/29	11:52		1 軒目の家		家の主人 盤法旗	家主？紙銭に火をつけて、龍船の側で燃やす。盤保古、袋の中から紙銭を出す。		三村
58	3/29	11:54		1 軒目の家	玄関前	盤法旗	玄関の前で、紙銭、名簿、剣を持ち唱えごと開始。		三村
59	3/29	11:55	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	占いを3回行い、又占いを4回行う。唱えごと。		譚
60	3/29	11:56	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	献酒（祭壇の右から左へ）、唱えごと。再び献酒、繰り返し、唱えごと。	唱える内容は「…土地公公、土地婆婆…」	譚
61	3/29	11:56		1 軒目の家	玄関前	盤法旗	唱えごとをしつつ、占う。紙銭を丸める。丸め終わると卦。背中を挟んで時計回りに3回まわす。		三村
62	3/29	11:57	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	趙法明は名簿を見ながら、唱えごとをし、献酒。		譚
63	3/29	11:59		1 軒目の家	玄関前	盤法旗	2 個目の紙銭を丸め、丸め終わると卦。		三村
64	3/29	12:00	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	紙銭を持ち、唱えごと。紙銭を数えながら、少しずつ祭壇前に積んでおく。唱えごと。		譚
65	3/29	12:01		1 軒目の家	玄関前	盤法旗	家人に紙銭を丸めたものを渡す。龍船の前に移動。紙銭を龍船の中に入れてながら唱えごと。		三村
66	3/29	12:02		1 軒目の家	玄関前	盤法旗	玄関の扉を閉めさせ、符（魁字）を描く。同時にシンバル、銅鑼が鳴り始める。		三村
67	3/29	12:02					次の家へ移動開始。		三村
68	3/29	12:06	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	占いを1回行う。人を呼び、鶏1羽を取ってもらう。祭壇の前で犠牲の鶏を捧げ、祭壇の石と積った紙銭に鶏の血をまく。紙銭3枚を持ち、祭壇の石に貼る。		譚
69	3/29	12:07		2 軒目の家へ到着	玄関前	盤法旗	到着し、唱えごとを始める。唱えごとをしつつ剣で動作を行う。		三村
70	3/29	12:08	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	紙銭で祭壇左に置かれた蠟燭から火を取り、祭壇前に積んだ紙銭を燃やす。唱えごと。		譚
71	3/29	12:08		2 軒目の家	玄関前	盤法旗	占いを行い、1 個目の紙銭を丸め始める。主人が灰を持って外に出る。		三村
72	3/29	12:09	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	献酒、唱えごと。		譚
73	3/29	12:10	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	占い1回、唱えごと。		譚
74	3/29	12:11		2 軒目の家	玄関前	盤法旗	1 個目の紙銭を丸めた後、手の前で回し、背中を挟んで時計回りに3回まわす。2 個目の紙銭を丸める。2 個目は手の前で回すだけで、背中には回さない。		三村
75	3/29	12:12	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	占いを行う（3回）、唱えごと。	唱えごと：「…災殃災禍…」	譚

番号	日付	時間	大儀礼名	場所 (大項目)	場所 (小項目)	行動主	行動	読誦・念誦して いるテキスト	記録者
76	3/29	12:14		2軒目の家	玄関前	盤法旗	龍船の前で紙銭を燃やしていた書記に、丸めた紙銭を渡す。そのまま龍船に紙銭を入れる。		三村
77	3/29	12:15	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	占い、唱えごとをする。又占う。		譚
78	3/29	12:15		2軒目の家	玄関前	盤法旗	玄関の扉を閉めさせ、符(魁字)を描く。同時にシンバル、銅鑼が鳴り始める。終わりに爆竹が鳴らされた。		三村
79	3/29	12:15		3軒目の家 (東隣)	玄関前	盤法旗	移動。玄関先で唱えごと。		三村
80	3/29	12:15		3軒目の家 (東隣)	家の中		主人が祖先の祭壇の前、横、玄関前で紙銭を燃やす。女性が線香に火をつけて外に出た。		三村
81	3/29	12:15		3軒目の家 (東隣)	玄関前	盤法旗	占いの後に紙銭を丸める。1個目の紙銭を丸めた後、手の前で回し、背中を挟んで時計回りに3回まわす。2個目の紙銭を丸める。2個目は手の前で回すだけで、背中には回さない。		三村
82	3/29	12:15	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	占い、唱えごとをする。又占う。		譚
83	3/29	12:17	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	献酒、唱えごと。		譚
84	3/29	12:18	祭霊官爺爺	六郎廟	霊官廟	趙法明	占い、立ってト具を叩きながら3回礼拝し、儀礼完了。		譚
休憩									
85	3/29	12:22		3軒目の家 (東隣)	玄関前	盤法旗	紙銭を龍船の中に入れてながら唱えごと。丸めた2個の紙銭を女性に渡す。紙銭は香炉の中に入れた。		三村
86	3/29	12:24		3軒目の家 (東隣)	玄関前	盤法旗	高齢の女性が、戸口を閉め、そこに唱えごとをしながら、符(魁字)を描く。		三村
87	3/29	12:24		4軒目の家 (東端)	玄関前	盤法旗	移動。玄関先で唱えごと。唱えごとをしつつ剣で動作を行う。家の中では紙銭を燃やしている。		三村
88	3/29	12:26		4軒目の家 (東端)	玄関前	盤法旗	スカーフを巻いた女性が灰を持って外に出る。占いをし、1個目の紙銭を丸め始める。		三村
89	3/29	12:28		4軒目の家 (東端)	玄関前	盤法旗	紙銭を燃やしていた家主は龍船の側で紙銭を燃やす。盤保古は、1個目の紙銭を丸めた後、手の前で回すのみ。2個目の紙銭を丸める。2個目も手の前で回すだけ。スカーフの女性に渡す。		三村
90	3/29	12:30		4軒目の家 (東端)	玄関前	盤法旗	唱えごとをしつつ龍船に紙銭を入れる。		三村
91	3/29	12:31		4軒目の家 (東端)	玄関前	盤法旗	玄関の扉を閉めさせ、符(魁字)を描く。次へ移動。		三村
92	3/29	12:32	供奉六郎	六郎廟	六郎廟内の 正面祭壇	料理者	祭壇に煮た鶏を1羽供える。		譚
93	3/29	12:40	供奉六郎	六郎廟	六郎廟内の 正面祭壇	趙法明	献酒、唱えごと開始。		譚
94	3/29	12:41	供奉六郎	六郎廟	六郎廟内の 正面祭壇	趙法明	献酒、紙銭を積みながら燃やし、唱えごと。		譚
95	3/29	12:42	供奉六郎	六郎廟	六郎廟内の 正面祭壇	趙法明	占い1回、唱えごと。		譚
96	3/29	12:44	供奉六郎	六郎廟	六郎廟内の 正面祭壇	趙法明	占い、又占い、唱えごと。		譚
97	3/29	12:47	供奉六郎	六郎廟	六郎廟内の 正面祭壇	趙法明	占い、又占い、唱えごと。		譚
98	3/29	12:49	供奉六郎	六郎廟	六郎廟内の 正面祭壇	趙法明	祭壇の前で紙銭を積み、その後燃やす。唱えごと。		譚

番号	日付	時間	大儀礼名	場所 (大項目)	場所 (小項目)	行動主	行動	読誦・念誦して いるテキスト	記録者
99	3/29	12:50	供奉六郎	六郎廟	六郎廟内の 正面祭壇	趙法明	占い、又占いを2回行われ、唱えごと。		譚
100	3/29	12:50	供奉六郎	六郎廟	六郎廟内の 正面祭壇	趙法明	献酒、唱えごと。		譚
101	3/29	12:51	供奉六郎	六郎廟	六郎廟内の 正面祭壇	趙法明	占いを1回行う。		譚
102	3/29	12:51	供奉六郎	六郎廟	六郎廟内の 正面祭壇	趙法明	立ち、ト具を叩きながら、礼拝し、完了。		譚
休憩									
103	3/29	12:56	祭土地公公	土地公公廟		趙法明	六郎廟から出発、土地公公廟へ行く。		譚
104	3/29	13:02	祭土地公公	土地公公廟		趙法明	土地公公廟到着、線香を供え、献酒、紙銭を燃やす。3分間程度で完了。六郎廟に戻る。		譚
				六郎廟			休憩・昼食		
105	3/29	13:51		2軒目の家			会食		三村
106	3/29	14:45					2軒目の家から廟へ向かう。2度目。		三村
107	3/29	15:41		六郎廟		村長	鶏を屠り、毛をむしる。廟の下に流れる川に行く。		三村
108	3/29	15:51		川		村長	廟の下の川で鶏の洗浄。内臓などを取り出し、洗う。		三村
109	3/29	15:51	祭四廟	六郎廟	六郎廟の正 面	趙法明	趙法明は供物台の前に座り、唱えごと開始。供物台には、白米・線香3本・蠟燭1本・酒杯5個・水杯1個・お碗1個（油揚げと豚の脂身）。		譚
110	3/29	16:07	祭四廟	六郎廟		趙法明	礼拝しト具を鳴らしてから唱えごと。献酒をしながら唱えごと。		三村
111	3/29	16:09	祭四廟	六郎廟		趙法明	鶏を碗に入れて、供物台に置く。唱えごと。		三村
112	3/29	16:14	祭四廟	六郎廟		趙法明	唱えごとをしながら、紙銭を地面に置く。献酒をした後、紙銭に火をつける。唱えごとは続いている。		三村
113	3/29	17:04		招壇土地廟			土地公廟に到着。土地公の前に、豚の脂身の入った碗1、水杯1、酒杯5、米の入った袋。線香と蠟燭が立てられる。		三村
114	3/29	17:13		招壇土地廟		趙法明	ト具を鳴らし、唱えごとを始める。		三村
115	3/29	17:23		招壇土地廟		趙法明	献酒をしながら唱えごと。		三村
116	3/29	17:25		招壇土地廟		趙法明	唱えごとをしながら、紙銭を地面に積む。		三村
117	3/29	17:28		招壇土地廟		趙法明	犠牲の鶏を捧げ、その血を紙銭につけ、廟の石に貼り付ける。		三村
118	3/29	17:28		白公廟		村人	白公廟の所へ鶏を持っていく。		三村
119	3/29	17:30		招壇土地廟		趙法明	唱えごとをしながら、紙銭を燃やす。さらに献酒。		三村
120							移動		
121	3/29	18:01		荊竹の橋			橋下、川の流れの上に木を組んで、焚き物を積み上げている。		三村
122	3/29	18:11		荊竹の橋		趙法明	橋の袂で儀礼を開始。唱えごとをしながら献酒。(別働隊の銅鑼、シンバルが聞こえてくる。)		三村
123	3/29	18:22		荊竹の橋			焚き木に火がかけられる。		三村
124	3/29	18:23		荊竹の橋		趙法明	唱えごとをしながら、紙銭を地面に置く。		三村
125	3/29	18:23		荊竹の橋		盤法旗、 村人	家々をまわって帰ってくる。		三村

番号	日付	時間	大儀礼名	場所 (大項目)	場所 (小項目)	行動主	行動	読誦・念誦して いるテキスト	記録者
126	3/29	18:25		荊竹の橋			龍船を焚き火の近くに置く。橋の上では龍の踊り。		三村
127	3/29	18:34		荊竹の橋			龍、龍船を火にくべる。鶏が屠られ、血を炎、紙銭にかける。その後、川で捌かれる。		三村
128	3/29	18:37		荊竹の橋		趙法明	再度、名簿を読み上げ、紙銭を置く。橋の袂に、もう1箇所、線香と蠟燭が用意される。		三村
129	3/29	18:40		荊竹の橋		村人	残っていた紙銭の束、法明の指示する紙銭を火にくべる。		三村
130	3/29	18:42		荊竹の橋		趙法明	赤いビニールに入っていた米を取り出し、紙銭に包み、折りたたみながら、唱えごと。その包みに対して、手訣を行い、右手→左手→背中越しに右手で包みを2回まわし、村人に渡す。左手→背中越しに右手で包みを2回まわし、村人に渡す。		三村
131	3/29	18:46		荊竹の橋		趙法明	再度、紙銭に米を包みながら唱えごと。占いを行い、3個目の包みを作り始める。左手→背中越しに右手で包みを2回まわし、手訣、占い、唱えごとをし、村人に渡す。		三村
132	3/29	18:49		荊竹の橋		趙法明	また、紙銭に米を包みながら唱えごと。両方の手元で、包みを横に払う様な動作。右手→背中越しに左手に2回包みを回し、手訣を行い、村人に渡す。		三村
133	3/29	18:51		荊竹の橋		趙法明 盤法旗	盤法旗が来る。法明、紙銭に火をつけ、足もとにあった紙銭を燃やす。法明、名簿を折りたたみ、唱えごとをしながら献酒。瓶を法旗に渡すと、法旗が唱えごと。法明、法旗で唱えごとを始める。		三村
134	3/29	18:54		荊竹の橋		趙法明 盤法旗	法旗、唱えごとをしながら、燃やしている紙銭にさらにくべる。法明は唱えごと。		三村
135	3/29	18:56		荊竹の橋		趙法明 盤法旗	法旗、唱えごとをしながら、献酒。その後、法旗の唱えごとが終わっても、法明は占いを行いつつ、唱えごとを続ける。		三村
136	3/29	18:57		荊竹の橋		趙法明	儀礼の終盤に、節を付けて唱えごとを行う。村人が、供物を片付ける。		三村
137	3/29	18:57					終了。		三村

